

◀◀◀ 主なリスクに関するご説明 ▶▶▶

価格変動リスク	投資信託証券が組入れる有価証券の価格は、国内および国外の政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。組入有価証券の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。
金利変動リスク	金利リスクとは、金利変動により公社債等の価格が下落するリスクをいいます。一般的に金利低下局面では組入れた公社債等は値上がりし、金利上昇局面では値下がります。また、残存期間が長期の公社債等の価格は、概して、短期のものより金利変動に対応して大きく変動します。組入有価証券の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。
流動性リスク	流動性リスクとは、有価証券を売買する際に、需給動向により有価証券を希望する時期、価格で売買することができなくなるリスクをいいます。投資する有価証券の流動性が損なわれた場合には、基準価額が下落する要因となります。
信用リスク	株式、公社債等の発行企業、不動産投資信託を発行する不動産投資法人等が経営不安、倒産等に陥った場合、またその可能性が高まった場合には、当該発行企業が発行する証券および短期金融商品の価格は下落します。場合によっては投資資金が回収できなくなることもあります。組入証券等がこうした状況に陥った場合、基準価額が下落する要因となります。
カントリーリスク	海外の有価証券に投資する場合、投資する国の政治・経済情勢の悪化、外国為替規制、資本規制、制度変更等による影響を受けることがあり、基準価額が下落する要因となります。
為替変動リスク	外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高となった場合には、基準価額が下落する要因となります。
不動産投資信託のリスク	不動産投資信託は、不動産を実質的な投資対象としているために、他の金融商品と異なる固有のリスクとして、火災・自然災害などの影響や不動産にかかる法制度の変更により不動産の価値が低下することがあり、基準価額が下落する要因となります。
先物等のリスク	対象指数や対象資産等の値動き、先物等の市場の需給等を反映して変動します。先物等を売建てている場合において、先物等の価格が下落すれば収益が発生し、上昇すれば損失が発生し（買建てている場合はその逆となります）、それぞれ基準価額が変動する要因となります。

遠賀信用金庫（登録金融機関）
福岡財務支局長（登金）第21号
加入協会：なし

上記リスクは一般的なファンドのリスクになります。
その他のリスクにつきましては、それぞれのファンドの「投資信託説明書（交付目論見書）」
のご確認をお願いいたします。